



# 筆洗器（油彩画用）

ひっせんき（ゆさいがよう）

造形ファイル <http://zokeifile.musabi.ac.jp/>



円錐型筆洗器（左）  
円筒型筆洗器（右）



密閉型筆洗器



筆立て付筆洗器

## 概要

油彩画用筆洗器は、油絵具で汚れた筆や刷毛を洗うための容器で、筆洗油（ブラシクリーナー）などの溶剤を注いで使用します。

一般的な筆洗器の形状や構造は、筆や刷毛に付着した油絵具を溶解する筆洗油を入れるため、適度な深さがある小型のバケツのような形状をし、サイズも据え置き用の大きなものから携帯用の小さなものまで様々あります。また、筆洗油は揮発性のある有機溶剤のため、容器の材質にアルミやスチールなどの金属が用いられ、必ず蓋があります。容器の内部は、底から数センチの高さの部分に網状の中仕切りがあり、その網に筆先を擦りつけることで絵具を落とし、底の部分に絵具が溜まるようになっています。容器の口を渡すようについている棒状のものは、洗い終えた筆に含む余分な筆洗油を、しごき落とす際に使用します。その他の筆洗器として、携帯が可能なように、蓋を完全に密閉させる留め金がついたものや、筆の浸け置きができるように、スプリング状の筆立てがついたものなどがあります。

使用方法としては、筆洗器に筆洗油をあらかじめ注いでおきます（分量は、筆を入れた時に筆先が完全に浸かる高さまで）。油絵具の付着した筆は、筆洗油に浸ける前にボロ布や新聞紙で拭い去ることで、筆洗油の汚れを抑えることができます。拭った筆先を筆洗油に浸けながら容器の底にある金網などに擦るなどして、しっかり筆の付け根部分まで洗い落とします。洗い終えた筆は、しっかり布で拭くなどしてよく油分を取り除きます。

筆洗油の取替え時期は、濁り具合、粘り気、臭いなどの変化で判断しますが、可能な限り早めの交換を心がけましょう。また、底に溜まった絵具も、中仕切りを外し、定期的に掃除をしましょう。汚れた筆洗油などの処分方法は、市販の油処理剤を用いることをお勧めします。油を固めるタイプと、固形媒体に吸収させるタイプ等があり、環境問題や発火の恐れがなく安全に廃棄できます。ただし、絵具には有害成分を含むものがありますので、適切な処分方法を各自治体の清掃局に確認し破棄しましょう。

取扱いの注意として、筆洗油は揮発性が高いため容器や

筆洗缶のフタをしっかりと閉めて保管し、換気や室温、火の気などには常に注意をして利用しましょう。  
油彩画用の筆洗器は、一般的な画材店で購入できます。



網（中仕切り）

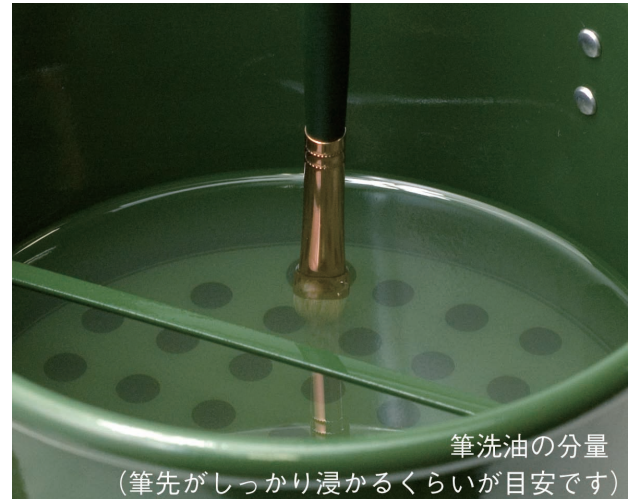


網部分は着脱できます



余分な筆洗油をしごき落とす棒

写真 1. 筆洗器の構造



筆洗油の分量  
（筆先がしっかり浸かるくらいが目安です）

写真 2. 筆洗油の分量

## 筆洗いの手順1（豚毛筆の場合）



手順1. 筆洗缶のフタを開け、筆洗油を注ぎます。換気の良い場所で行いましょう。



手順2. 筆洗油の分量は、筆先が完全に浸かるほどの量を目安にします。



手順3. 筆洗油で洗う前に、ボロ布などで筆についた絵具を拭き取っておきます。そうすることで筆洗油の汚れを少なくできます。



手順4. 筆先を、筆洗器の底にある金具などに擦りつけ、汚れを洗い落とします。汚れの落ち具合をボロ布などで拭いて確かめ、布に絵具がつかない程度まで洗います。



手順5. 筆についた筆洗油を布でよく拭き取り、筆先を整え、立てて乾かします。筆洗油は揮発性が高いので使用後は、筆洗缶のフタをして保管します。

## 筆洗いの手順 2（豚毛筆の場合）



手順 1. 筆洗油で絵具を落とした筆を、水やぬるま湯ですすぎます。



手順 2. 固形ブラシクリーナーや石けんで洗淨します。



手順 3. 筆先の奥の汚れも、よく洗い落としましょう。



手順 4. 洗淨しおわったらぬるま湯ですすぎ、布で水気をぎります。



手順 5. 筆先を整えます。



手順 6. 立てた状態で乾かします。